

国際協力特別賞

「学校へ行こう」

安曇野市立穂高西中学校 3年

森田 クラウディア コバル

Let's go to school. そう書かれたリュックを背負っている少年の後ろ姿。しかし、少年の手には銃が握られています。

中学一年の時、ネットでこの写真を見つけました。子ども兵の写真でした。初めて見たとき、衝撃的すぎて涙が出てきました。少年は学校ではなく、人を殺しに、あるいは殺されに、戦場に行くのです。

今、世界には約六千万人もの学校に行けない子どもたちがいるそうです。その理由は遠かったり、お金がなかったり、働かなければならなかったりと様々でした。その中にはあの写真で見た子ども兵の子たちもいるんだと思うと、紛争に怯える事もなく、あたり前のように学校に行っていることがどれだけ幸せなことなのか身にしみるようでした。

写真を見た後、私は子ども兵について調べてみました。紛争が起きている地域では、兵士の数がたりないため、紛争の地域に住む子どもたちを兵士として使っているそうです。そのやり方は残酷で、まず子どもを誘拐し暴力や薬物によって洗脳し、兵士として戦場へ送り出すそうです。また、現在二十五万人以上もの子どもたちが兵士として徴用されており、上官の命令に逆らったり兵士として役に立たなくなった子ども兵は「使い捨て」られていることも知りました。生まれた地域が違っただけで、本来ならペンを持つはずの子どもの手に銃が握られている。その事実と、世界の不平等さを本当に恐ろしく感じました。

また、子どもが学校に行けないことの大きな要因の一つに、児童労働があります。最近、私の父の生まれた国であるインドネシアでも子どもたちが働かされていることを知りました。私の家には、カバンや衣類など、輸入元がインドネシアである製品がいくつもあります。小さい頃は「お父さんの国だ！」と喜んでいたものが児童労働によって作られたものかもしれないと思うと、児童労働は遠い国で起こっていることではなく、身近に潜んでいることなんだ、と考えさせられました。

学校に行きたくても行けない子どもたち、子ども兵や児童労働に苦しむ子どもたちを救うためにはどうすればいいんだろうと調べてみると、たくさん、本当にたくさん出てきました。寄付、フェアトレード、ボランティアなど…。つまり、私たちにできることはそれだけたくさんあるということです。

また、私が一番大切だと思うのは世界の現状を「知る」ことです。私も一枚の写真を知ったことで子どもたちの問題に目を向けることができたし、知らなければ何も行動を起こすことはできません。そして「知る」ために学校があるのだと思います。私には夢があります。それは、紛争など、生まれた環境によって苦しんでいる人々を救うことです。学校に行けない子どもの分まで学び、世界をよくしていけるように私は学校に行こうと思います。